ヤマコンが営業所対抗「技能五輪」を開催

社内競技を通じて技術力向上，安全作業確認

編 集 部

コンクリート圧送業大手のヤマコン（本社・山形市，佐藤隆彦社長）は5月13日，本社構内で第６回「ヤマコン技能五輪」を開催した。社内競技を通じて技能向上を図り，安全作業確認を徹底する目的で10年前からほぼ隔年ペースで実施しているもので，今回は福島県の金堀重機チームも特別参加したほか，岩手県や埼玉県の業界関係者も見学に訪れ，盛会となった。

ブーム操作・配管作業・新人の３部門で競技

冒頭，あいさつに立った佐藤社長は「約230人の社員が在籍し，14の営業拠点を配置しているが，本日は全営業所から選手が参加した。日頃の技術，技能を発揮しベストを尽くしてほしい。こうした大会を行っているのは全国でも当社だけ。日頃から目標に掲げるオンリーワンを体現する機会でもあり，ヤマコンの一員として自負をもって競技に臨んでほしい」と述べ，激励した。

競技はブーム操作，配管作業，新人（経験３年程度）の３部に分けて行い，ブーム操作では12チームから各代表１人が参加した。競争する条件を公平にするため，使用するポンプ車は極東開発工業のスクイーズ式ポンプ車PH50－17（配管の部では大型ピストンクリートPY115A－26C）に統一した。

〈ブームの部　指示書〉

○始業点検前に前方へ前進し，先端にドッキングホース１本を装着し，ペール缶５個に対してドッキングホースの白線部が隠れる状態まで入れるブーム操作を25分間で実施せよ

○不具合箇所を発見した場合は，審判員に報告せよ

○ドッキングホース取付け，取外し以外でドッキングホースを身体で保持してはいけない

○ブーム等を格納し，元の位置に駐車した時点で審判に報告せよ（25分以内に完了した場合は１位から５位までボーナス点を加算する）

○後退する場合は審判が誘導する

○作業終了後，審判の指示により５分間で現状に復帰せよ

まず，ポンプ車に隠された不具合箇所を始業点検で発見し，審判員に報告。OKが出ると車を所定位置まで前進させ，ブームの先端にドッキングホース1本を装着し，ペール缶５個に同ホースの鼻先が隠れるまで順番に入れていった。熱戦が繰り広げられるなか，ホースが左右に振れる結果，ペール缶をひっくり返す場面が相次いだ。

ペール缶めがけてブームを操作

参加チームが勢揃い

〈配管の部　指示書〉

○この作業現場は40階のマンションで，コンクリート強度が一部60Ｎ／㎟の構造物である．本日の打設場所は20階のスラブで，コンクリート強度36Ｎ／㎟で，前日90度の曲がり管と縦管の配管を終了している

○ポンプ車の始業点検は完了している。２人１組で集積した器資材を使用し，作業時間25分で根本配管を完了せよ

○作業が完了した時点で審判に報告せよ（25分以内に完了した場合は１位から５位までボーナス点を加算する）

○作業終了後，審判の指示により10分間で現状に復帰せよ

配管作業は12チームの各代表２人がペアを組んで参加。4B配管を使用し，ちょっと見た目には違いがわからない管を選ぶことから競技が始まった。90度の曲り管と縦管に根本配管する高度な技術力を競ったが，25分間の時間内に作業を完了したチームは５チームあった。そうしたなか，ベテランと若手がペアを組んだ金堀チームが配管の選定ミスはあったものの，見事な手腕で手際よく配管し注目を集めた。

佐藤隆彦 社長

澤村武 大会実行委員長

開会式のもよう

〈新人の部　指示書〉

○枠内は仕上げの終わったフロアで，中央付近にある障害物は仕上げの終わった開口部である

○２人１組で白線に沿って集積した器資材を使用し，作業時間15分間で配管を完了せよ

○作業が完了した時点で審判に報告せよ（15分以内に完了した場合は１位から５位までボーナス点を加算する）

○作業終了後，審判の指示により10分間で現状に復帰せよ

新人の部は11チームがチャレンジし，途中の障害物を上手に回避して迅速に配管する正確さとスピードを競った。２人１組で参加し，約半数がベトナムの実習

ブームの部がスタート

不具合箇所を点検

ここまで徹底して点検

ドッキングホースの装着準備

この作業も楽ではない

声援の中，競技に集中

あと少しでホールイン

ベトナムの研修生も学科試験を受ける

経験者も久しぶりに受験

新人の部の会場風景

一度に 2 本運ぶ強者（つわもの）も

その調子，その調子

時間との勝負

雨天のなかで熱戦が

飛び入り参加した支店長チーム

難度が高い根本配管

同じ管に見えて１本、１本異なる

かなりいい線いってます

手腕が光った金堀重機チーム

バッチリ繋がりました

２人の息がぴったり

生だった。１人で２本の管を抱える強者（つわもの）もおり，声援が飛び交った。また，支店長４人がチームを組み，飛び入りで参加。管の上に座って胡坐（あぐら）を組んだり，配管している人の側（そば）に集まって作業を眺めて茶々を入れるなど，様々に禁じ手を披露し，会場の笑いを誘った。ただし，さすがに各支店の責任者だけあって時間内に作業を終えた。

これら実技に加えて，今回は初の試みとして本社会議室で学科試験も行い，実習生向けにベトナム語の試験問題も用意した。

金堀チームに特別賞おくる

優秀な成績を収めて表彰されたチームの所属営業所は▽ブーム操作の部＝１位山形営業所，２位湾岸，３位浦和▽配管の部＝１位山形，２位湾岸，３位県南▽新人の部＝１位郡山，２位湾岸，３位山形，だった。全ての競技に金堀重機チームが参加し，特別賞および社長特別賞を受賞した。

閉会にあたり，佐藤勝彦会長が講評し「一生懸命取り組む姿を見て大変感激した。圧送技能の教育はOJT以外にない。ただし，どうしても我流になってしまいがちであり，他の人の作業手順などを見て学ぶのに，この競技は絶好の機会といえる。技術力は年々，上向いており，これからも頑張ってほしい」とエールをおくった。

こちらは意外と手間取る

2人がかりで接続作業

佐藤勝彦会長が講評

金堀重機チームに社長特別賞

激戦を終えて参加チームと関係者が全員集合

圧送マイスターが審判員として活躍

第6回競技は大会実行委員会（委員長＝澤村武執行役員圧送事業部長）が自主的に準備を進め，経営サイドには直前まで内容を知らされなかった。トップダウンではなく，ボトムアップで企画された。審判と審判長は同社が独自に認定する「ヤマコン圧送マイスター」がつとめ，8人が抜擢された。競技開始前に注意事項を伝え，始まるとちょっとしたミスにも厳しい目を光らせた。

ヤマコングループは2005年，安全・安心の基本となるのは高度な技術にもとづいた施工だとし，全圧連が認定する基幹技能者とは別に，同社独自の技術認定制度としてマイスターを制定した。コンクリート圧送の優れた技術を持つ工務職員を一定の基準に基づいて「圧送マイスター」と「圧送エキスパート」の2段階で認定している。手本にしたのはドイツのマイスター制度で，ものづくりのプロの技を次代へ継承するシステムとして着目した。

認定を受けた工務職員は，一定のステイタス（地位）を持ち，会社が必要とする場合は現場での業務を離れ，技術指導や圧送計画，安全会議などに参加し指導的役割を担う。また，技能の維持および向上，次代への技能伝承を推進することも期待されている。

県南営業所の決意表明

新潟営業所

湾岸営業所

浦和営業所

庄内営業所

トミヤ

仙台営業所

ヤマコン宮城

金堀重機